

② 第2回 天白生涯学習センター 防災講座

水 害 時 に 役 立 つ 技 術

～いざという時に活用できる物～

1. 日 時：令和2年12月10日（木） 10：00～12：00
2. 場 所：天白生涯学習センター 第1集会室
3. 主 催：名古屋市教育委員会
4. イベント名：令和2年度 後期主催講座
5. 参加者人数：9名
6. 講 師：NPO法人 愛知県防災士会 防災士

櫻井 衛

7. ファシリテーター：寺島、原田

第2回講座の12月10日は、コロナの感染者数が全国2,973人と過去最多を更新しており、検温・消毒・マスク・3密と細心の注意を払っての講座となりました。

冒頭、愛知県防災士会 寺島一徳理事長より、私は、「天白区の小・中学校を卒業し、現在も天白区に在住する住民であり、天白区での被害が最大であった東海豪雨の後も小さな水害は、時々起こっているの、十分注意をして、今回の講習を役立てて下さい」とあいさつをされました。

櫻井講師からは、前回の講座で学んだように、近年の豪雨災害は、堤防を強くしても内側からの内水氾濫によるので、どこでも起きる。

水害から家を守る方法の一つとしての「土のう」の作り方の説明から始まりました。

(1) 水から家を守る土のうの作り方

ゲリラ豪雨などで突発的な大雨が発生した時の事前対応（土のうの準備）は難しい。

土のうを作るためには、大量の土砂や人手が必要です。（土）（土のう袋）（スコップ）など。

また、土のうを一人で作るのは、大変で2人一組での作業となる事や大量の土のうの保管場所も必要となる。

土のう袋のサイズや材質の説明では、一般の袋は、ポリエチレン製が多く、2年位で劣化してしまうので、UV加工されている物がよりベタ



講演を始める櫻井講師

一である事など、土のう袋のメリットとデメリットを説明。

そこで、代わりとなる「水のう」の話になり（実物展示）、市が配布している45リットル程度のごみ袋（ビニール製）で作る「水のう」がトイレや風呂場、洗濯機の排水口などからの浸水被害を減らす備品になる事や道路などからの侵入には「水のう」を段ボールの箱に入れたり、ビニールシートで巻いて補強して使う方法が実際の写真で手持ちの資料に添付されていました。

他に備えてあると便利な「吸水簡易土のう」という吸水ポリマーで作られている土のう袋は400gのシートが3～5分水に浸すだけで20kg以上の土のう状態になり、1人で作業が出来て、ふくらんだ袋は、日に干すと2～3日で元に戻り、繰り返し使用できて20枚入り1箱で場所も取らず保管が出来るので準備してあれば安心の優れ物です。

ブルーシートの説明では、安い物は弱い「#3000番」の丈夫で大き目の物を準備する事と、ハトメの位置が合わないときに小石を使ったハトメの作り方の実技をしました。

(2) 巨大化する災害から生き残る

政府は今、食料の備蓄は「各自で1週間分を〳〵」と言っています。スーパーやコンビニは、県と市と契約を結び、災害時の避難物資とするために店舗を閉めて、物資を確保する方向になっています。

したがって県や市はほとんど何も備蓄されていません。

開いているコンビニは、帰宅困難者向けの為、誰でも行って買うと言う訳にはいきません。

第1回講習のおさらいとして先回の備蓄品リストを今一度見直して、自宅で1週間生き残れる準備をして下さい。

ここ最近の菅総理大臣の口ぐせは「自助、自助」です。国も県も面倒見切れん〳〵と言う事でしょう。

東海地震が起きるであろう、駿河湾の海底（静岡県側）に1千億円もかけて歪計、地震計を多数設置したが、地震の予知は不可能となり、2段階割れや一部割れの話となり、仮に2段階割れを想定した場合①「南海沖から日向灘」にかけて割れ、引き続き②「東海沖から東南海沖」が連動して割れる恐れがある時は、この地域の住民は、前もって約1週間の避難を強いられる覚悟が必要となることを強調し、一部割れを想定した場合、住民が自主的に避難する時は、知人宅等を基本とし、市町村などには避難先の確保を求めるとされています。

(3) 台風・地震に負けない家

命を守るには、家の簡易耐震診断を受けて災害に負けないように家の

補強をしておきましょう。

建築基準法は、幾度となく改正されていますが、熊本地震では、新たな建築基準で建てられた家も倒壊しています。

「法律は、住民を守るための改正か、建築業者のための物か？」建築基準法通りに造っても、完璧では無い。

櫻井講師の自宅は2×4（ツーバイフォー）工法の住宅であり、基礎からのホールダウンアンカーは必要無いのだが、オプションで追加工事をされたと実例を話され、工事中の現場は実際に監督をしないと手抜きやアンカー忘れがあり、何度もやり直したが、まだ、完璧では無い。「弱い部分を補強して下さい。」と災害に負けない家にする大切さを強調されました。

次に今すぐやってほしい事として、家具等の転倒防止について家具や調度品が凶器になり、阪神・淡路大震災の時には、家具の下敷きになり命を落とした人が多くいた事からテレビやボード、食器戸棚、冷蔵庫等をそれぞれ色々な金具や器具を使い分けて止める方法と実物金具を使用した映像及び資料が配布され、実物の金具見本数種類が机にならべられてありました。

最後に災害時のトイレ問題については、各避難所には、劣悪で不衛生なトイレ状況の中、感染症や下痢で体調を崩すなどの事例と自宅のトイレ対策の説明があり、自宅のトイレは、ノータンクトイレよりタンクのあるトイレが雑用水などを流せ、お勧めです。ライフラインがストップした場合は、ビニールのゴミ袋を二重にして凝固剤などで固めて燃えるゴミに出すなどの具体的活用法の説明がされました。

屋外で使う簡易トイレの場合には、目かくしも兼ねるトイレテント（6千円位）があると大変べんりですと実物が広げられました。このテントは、避難所で生活する場合、トイレの他人目を気にせず、着替えや夏場の汗拭きにも使えます。

☆一家に一台簡易トイレ+テント+凝固剤+消臭剤+処理パック（ビニール袋）

後半は、命を守る実技として、ゴミ袋で作る防寒着とカップの2種類やビニールシートのハトメを小石で作る方法等を参加者全員が作り、全ての講座を修了しました。



ハトメのやり方実技



カップの作り方実技

終了後も参加者の皆さんは、展示されている金具類や簡易トイレの見本を見て講師に数々の質問をされておりました。

文責・写真：原田 友子